



岸連合自治会・岸地区福祉協議会

〒258-0112 足柄上郡山北町岸2061

発行責任者 田淵 康男

編集責任者 渡辺 充

文命祭300年記念号

文命祭の様子

岸広報では、だびたび取り上げられる話題ですが、はじめて読まれる方や参加されなかった方も多いので写真を掲載します。文命祭は大口橋の上流にある岩流瀬（がらぜ）橋の近くにある地藏堂横の文命宮前で毎年行われている行事です。

＊岩流瀬については前号（182号）に掲載



文命宮にお供えをし、藪田宮司の祝詞奏上（写真は先代宮司：令和元年）、参加者の玉串奉奠等を行います。今年の参加者は集合写真（左）の37名（中央は藪田麻子宮司）でした。

文命西堤（岩流瀬堤）・文命東堤（大口堤）を築いてから今年で三百年

酒匂川は古くから「暴れ川」といわれ、足柄平野に水の恵みをもたらす一方で、洪水を繰り返してきました。文命祭は、東西文命堤の水防の歴史を忘れず、災害に立ち上がった先人に感謝する祭りで、祭礼は旧暦4月1日でしたが、1873（明治6）年から太陽暦が使われたため5月5日に変わり、現在も5月5日に岸地区の大事な行事として、岸連合自治会が祭礼を受け継いでいます。文命堤の完成から三百年を迎え、水防の歴史を振り返ってみましょう。

相次ぐ災害に見舞われる足柄平野

1703（元禄16）年に元禄大地震（震度7）が起き、小田原城下は津波と火災の大きな被害を受けます。山北では家の倒壊と各所で山が崩れ、村々の通行が出来ない状態でした。復興に取り組むさなか、翌年と翌々年に岩流瀬堤と大口堤が崩れ、洪水で田畑が流失し岸と向原も被害を受けます。

1707（宝永4）年に宝永地震（東海地方震度5）が起き、39日後に富士山が大噴火し、火山灰が16日間降り続き、山北では60cm前後の灰が積もりました。この灰をどう取り除くのかが大問題で、村々は小田原藩に灰の処分方法と処分料の援助を求めますが、役人は「自力で取り除け」と言うばかりでした。山北では表土の下に灰を埋めた「天地返し」の跡が見つかっています。

酒匂川が氾濫し、流れを変える大災害が起こる

積もった灰で川底が高くなり、大雨で翌年1708（宝永5）年に岩流瀬堤と大口堤が崩れ、洪水となり田畑が流されてしまいます。

藩は酒匂川の改修を江戸の商人に請け負わせ、また、各大名の支援を受けた工事を行いますが、川の状態を見極めた治水工事に結びつきませんでした。3年後の1711（正徳元）年には、川の流れが変わる（次ページの図）最大の大災害が起きます。足柄平野一帯の家や田畑と家畜のほとんどが押し流され、住む家と生活の糧をすべて失う被害となります。流された村々は、訴えにより藩の山に避難を許されましたが、飢えに苦しむ生活で、村に帰れたのは20年後でした。

幾筋にも流れを変えた川をどう復旧するか 東岸と西岸の村々の対立

この大災害から文命堤の完成まで、何度も洪水に見舞われるなかで、西岸の村は川の流れを元に戻すとし、東岸の村は新川筋のままにするとして、東西の村々の意見が激しく対立します。岸と向原は、東岸に同意しませんでした。藩は結論を先送りにし、藩の財力では復旧は出来ないとして、幕府に領地を返上してしまい、後の工事は幕府が行うことになります。

※「火山灰」とありますが、山北町では灰だけではなく砂礫状の噴出物が多数降りました。

流れを元に戻し、東西文命堤を完成させた田中丘隅

田中丘隅(きゅうぐ)は、1723(享保8)年に現地を調査し対策を練り、1726(享保11)年2月の農閑期に工事を始めます。

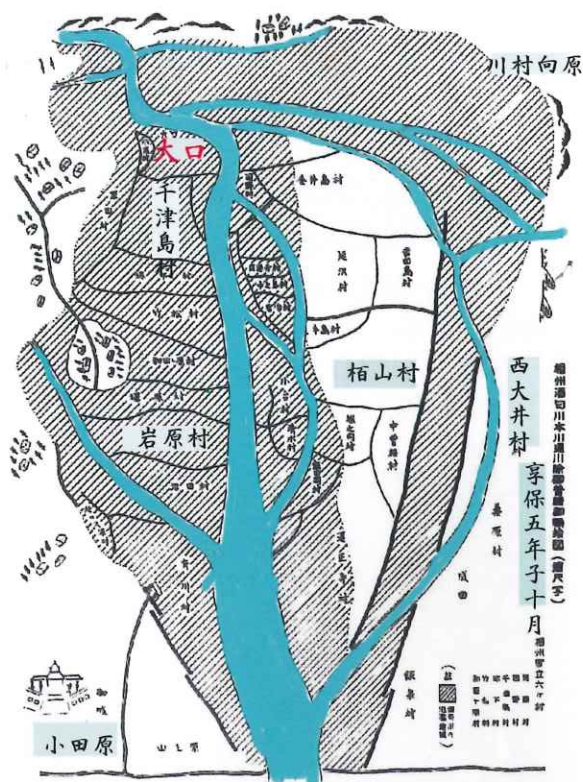
丘隅は村人の生活を考え、地元の資材と労力を活用し、工事中は蓮華寺(小田原)と近在の僧侶に安全祈願を行わせ、5月には両堤の改修を完成させます。

丘隅は「治水神・文命」の伝承から、岩流瀬堤を文命西堤・大口堤を文命東堤と改め、文命社と6地蔵を建立し、水防組合を作るなど堤を護る自衛水防の考えを残しました。

文命祭は水防の日、現在の防災の日とも言えます。

酒匂川の治水に成功し 自衛水防の考えを伝えた田中丘隅 幕府の重い負担から川崎宿の立て直しに尽くす

丘隅は、1662(寛文2)年に現東京都あきるの市に生まれ、家業の仲買で各地を回り、その才を見込まれて、川崎宿本陣(現川崎市)の田中家の養子となります。当時の川崎宿は、公用の物資を運ぶ(伝馬制度)重い負担と、多摩川の洪水で苦しい経済状態で、丘隅は多摩川の渡し船の請負を幕府に願い出て許され、その船賃で川崎宿を立て直します。



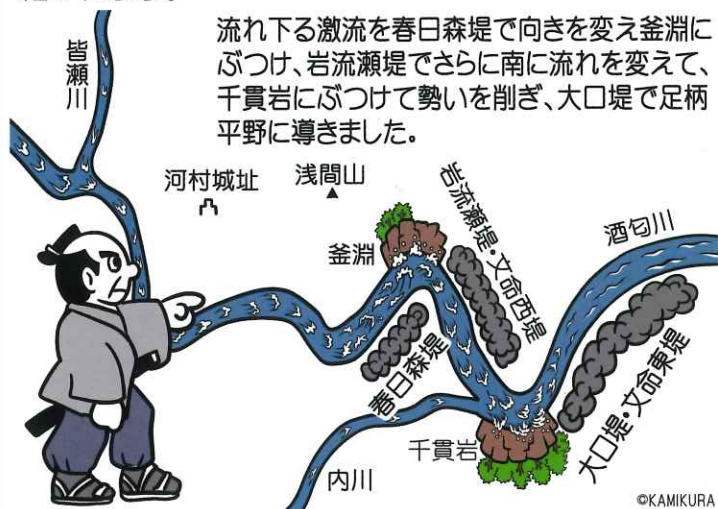
斜線は酒匂川の氾濫地域
川に色を付け文字に手を加えました

「民間省要」(みんかんせいよう)で政治のあり方に意見を述べる

丘隅(50歳)は江戸の儒学者(じゅがくしゃ)荻生徂徠(おぎゅうそらい)の門下生となり、中国古代史や経世論(けいせいろん)を学び、58歳で各地を調査した内容を「民間省要」全15巻にまとめ、農民の生活や治水策などで、政治の改善を提案します。

幕府から町奉行の配下として酒匂川の改修を命じられる

「民間省要」を大岡越前守忠相が将軍吉宗に差し出し、注目した吉宗は丘隅(61歳)に多摩川の改修を命じます。その実績で酒匂川改修工事を命じられ、丘隅(64歳)は岩流瀬堤と大口堤の工事を成功させます。東西文命社の碑文には、丘隅の工事への思いが刻まれています。碑文は丘隅の原案を、吉宗の命を受けた荻生徂徠が加筆修正しました。丘隅は2年後に現地を視察し、東西文命社に参拝します。1729(享保14)に享年68歳で亡くなりますが、その後の酒匂川の治水は、蓑笠之介(娘の夫)に引き継がれます。



流れ下る激流を春日森堤で向きを変え釜淵にぶつけ、岩流瀬堤でさらに南に流れを変えて、千貫岩にぶつけて勢いを削ぎ、大口堤で足柄平野に導きました。



不思議な記号？

高低記号(こうていきごう)と言い、高さを測る器具・現在の水準器で、工事で使った印を掘らせたと考えられます。

「治水神・文命」とは「文命」は紀元前2000年頃の中国の人で、黄河の治水に生涯を捧げ、後に夏国の禹(う)王となります。(禹)は水神の意味で、「治水神」として祀られました。

- ・丘隅が伝えた水防の考え
- ・ここで毎年お祭りをしなさい
- ・(水防を忘れないこと)
- ・その時、みんな必ず石を一つ以上持ってきてなさい
- ・(水防の籠の材料にする)
- ・堤防に果樹を植えなさい
- ・(堤防を踏み固め強くする)
- ・堤防を組み合わせなさい
- ・(堤防を組み合わせで護る)

文命堤の百年前に治水に挑んだ偉業の人

伊達政宗(仙台藩主)の命により北上川の大改修を成し遂げ「石巻の大恩人」と慕われ重吉神社に神として祀られた川村孫兵衛重吉(まごべえしげよし)は河村氏・秀高の子孫でした。(岸広報「149号」に掲載)

知っていますかー現代の治水対策はどう行われているか

近年の異常気象による豪雨被害などから、地域の現状を知ることは大切です。昭和12年と昭和47年7月に山北町で起きた豪雨災害を忘れず、災害への心構えが求められます。

三保ダムの建設と三つの役割

三保ダムは、三保地区の人々の「県民の犠牲となって水没する」という、高い志と協力により、三つの役割を目的に1978（昭和53）年に建設されました。

- ① 洪水調節機能として、酒匂川の水量を観測しながら、満水時と降水期に水位を調整して豪雨に備えます。
 - ② 水道水の供給として、小田原市・横浜市・川崎市・横須賀市と県水道に供給されています。
 - ③ 電力発電は、およそ3,500戸の家庭の消費電力を供給しています。
- 機能の維持に、丹沢湖に流入する土砂や流木を取り除く作業を行っています。

酒匂川の水防対策はどうとられているか

酒匂川の水防管理は県が行い、環境保全活動は、酒匂川水系保全協議会を関係する78団体で構成して行っています。

県は、定期的に川に堆積した土砂の撤去を行っています。工事関係者は「今も大雨の度に上流から富士山噴火の灰が流れてくる」と話します。県が公表している洪水浸水予想図では、岸は浸水地区に含まれ、関心と警戒が求められます。



川村用水と岩流瀬用水の環境美化活動

川村用水と岩流瀬用水は、松田用水から小田原まで続いていて、今も足柄平野の大切な用水です。皆瀬川は、宝永の富士山噴火以前は御殿場線沿いを流れていましたが、噴火の降灰で山北と向原の一角が洪水となり、現在の川の流れにする瀬替えが行われました。その結果、山北地区では水源を失って水枯れで生活に困り川村用水を造り、後になって岸にも用水が延長されました。

1960（昭和30）年の町広報に「生活雑排水やし尿の放流で川と用水の汚染が深刻」という記事が掲載されています。上郡5町と南足柄市も同様な状態でしたので、1964（昭和39）年に足柄上衛生組合が設立されます。

1979（昭和54）年には川村用水組合が設立され、用水路の美化活動が町内一斉に行われてきました。大雨予報時の水防対策として、川村用水と岩流瀬用水の取水口は閉鎖されます。



知っていましたか 「酒匂川ふれあい館」

足柄大橋下の土手に「酒匂川ふれあい館」があります。開館は毎週土・日曜の午前10時～午後3時で、説明も受けられます。「酒匂川ふれあい館」は、酒匂川関係の資料を展示している県内唯一の施設です。館内には、酒匂川の治水の歴史が展示され、館外の堤には、実際に工事で使われた工法と、現在の水防の工法も展示されています。



酒匂川の 橋物語

橋は無かった



江戸時代の絵図です。江戸を護るために酒匂川に橋はありませんでした。渇水期には板橋や土橋で渡り、増水期には宿と班目を渡し船で渡っていたと伝わります。1909（明治42）年に、初代の大口橋が吊り橋で架けられました。

今日? 明日? 起きるかも知れない災害(予測)を知ることが大事です

「南海トラフ巨大地震は、今後30年以内に80%の確率で起きると言われています。
また洪水被害や富士山噴火も懸念されています。

南海トラフ巨大地震



山北町の震度予想 5弱

震度5弱とは

- ・多くの人が身の安全を図ろうとする。
- ・行動に支障を感じる

富士山噴火の 降灰と溶岩流

- ・降灰3cmで車などの交通が不可能との予測
- ・降灰が30cm以上と予想される地域は広域避難
- ・場合によっては酒匂川沿いに溶岩流が7日間で山北に到達の予測
- ・降灰時の必需品(ヘルメット、ゴーグル、マスク)

豪雨による 浸水・崖崩れ

- ・居住している場所により災害はことなります
ハザードマップを確認してみましょう

山北にはスコリア
(黒っぽい軽石)
も降りました



南海トラフ巨大地震や富士山噴火などでどんなことが起こるのか考えてみましょう

- ・家屋の被害 ・道路の損傷 ・停電 ・断水 ・通信障害 ・交通と物流の停滞やマヒ
- ・火山灰には特に注意(火山灰の質量予測 10cmの降灰で1平方m当たり100~150kg)
- ・物流が遮断され復興までの食糧の備蓄はどのくらい必要とおもいますか

身を守るための行動を 防災訓練などで地域で互いに助け合う力を高めましょう

その時慌てないために 常に家庭で心掛け用意しておくもの

食料・水を多めに備蓄



水は1人1日3ℓといわれています。

風呂の
残り水

携帯電話
の充電

ガソリン
などの
燃料

あると
便利な
日用品

カセットコンロ&ボンベ ポリ袋 はさみ
缶切り 割箸 紙皿 アルミホイル ラップ
ペーパー類 ウェットティッシュなど

非常用簡易トイレ
在宅避難時必要



非常時の家族との連絡方法 (例)

(1) 非常時の連絡方法

- ① 災害用伝言ダイヤルに状況を録音し、
家族の伝言を再生する

【録音】 1 7 1 → 1 → 自宅の電話番号
→ 1 (録音) → 9 (終了)

【再生】 1 7 1 → 2 → 自宅の電話番号
→ 1 (再生) → 8 (再度) → 9 (終了)

- ② 家族に連絡を取り、移動後はかけ直す
- ③ 決めた所に避難先や状況を書き残す
- ④ 遠くの親戚に家族の状況把握を頼む

(2) 待ち合わせ場所と避難場所

待ち合わせ：●●● 避難先：◆◆◆◆

文命祭は防災の日

本文中にあります、田中丘隅が「文命宮を建て、祀りなさい」と伝えてから今年で300年となります。

丘隅は高齢になってから本格的に学問に取り組み、治水の具体的な方法を考案するなど、その素晴らしさを皆さんにぜひ知って欲しい、現在に生かして欲しいとの思いから、茂木昇さん(元南原自治会長・元広報部長)に執筆を依頼しました。私の要望が多岐にわたったため多くのことを調べられましたが、紙面の関係上一部しか掲載できないことが残念です。

この企画で先人の思いを日々生かしていただけたら幸いです。なお文命祭の祭事が連休と重なるため、開催日について現在検討を行っています。

岸連合自治会長 田淵康男